

報告第10号

株式会社淡路島パルシェの令和4年度決算書類の提出の件

株式会社淡路島パルシェの令和4年度決算書類について、地方自治法（昭和22年法律第67号）第243条の3第2項の規定により、別紙のとおり提出する。

令和5年9月1日提出

淡路市長 門 康 彦

令和4年度事業報告

(令和4年4月1日～令和5年3月31日)

【総論】

今年度の来館者総数は186,298名(前年度比122.4%、一昨年度比146.6%、コロナ前の令和元年度比77.3%)、内訳は香りの館93,108名(131.8%、149.2%、71.4%)、香りの湯93,190名(114.3%、144.0%、84.2%)、純売上高は180,768,486円(税別・前年度比121.1%、一昨年度比138.9%、コロナ前の令和元年度比73.0%)であった。

来館バス台数については、355台(前年度261台、一昨年度216台、コロナ前の令和元年度1,098台)、部門毎の純売上高は、物販事業前年度比133.0%、一昨年度比147.9%、コロナ前の令和元年度比73.8%、和食処かおり事業55.7%、55.9%、20.3%、栽培事業120.4%、177.4%、92.8%、ファーストフード事業136.5%、148.5%、106.5%、加工体験事業137.1%、158.0%、117.1%、温泉事業113.7%、148.7%、82.4%、宿泊事業178.2%、202.7%、101.4%であった。上半期は海水浴場の開場をはじめ、島内のイベント事が次々再開され、観光バスの動きも出てきたこともあり、和食処かおりの大きな落ち込みを除くと、新型コロナウイルスの影響が徐々に和らぎ回復傾向にあった。しかし下半期に入りコロナ第8波と言われた11月から1月の間の落ち込みが大きく、繁忙期と閑散期の差が大きい一年となった。

今は、直面している大きな課題であるコスト高を乗り越え、アフターコロナを見据えた新しいパルシェへの舵取りの時期にあり、「変化を起こす」を合言葉に新しいパルシェ作りに取り組んでいる。コスト高については、A重油、電気をはじめ、原材料、最低賃金の引上げ等経費の殆どが高騰しており、一部価格の見直しを実施し、更なる見直しも検討している。単に値上げをするのではなく上がった価格に見合うよう、商品価値並びに施設の価値を高め、お客様の満足度を上げたうえでの値上げを行う。アフターコロナへは、香りのまちの観光施設という原点に戻り、花と香りを軸に「2025 大阪関西万博でのフィールドパビリオンへの参画」、「SDGs」、「パートナーシップの拡大」を大きな取り組み課題と考え推し進めている。また、淡路ラボの大学生インターンシップを受入れ、若者の感性を活かしたSNS発信、イベントの開催、並びに商品開発等についてお力添えいただいた。

【各部門の事業内容】

1. 物販事業(特産館・和食処「かおり」での物品販売事業)

売上は41,819,636円(税別・前年度比133.0%)であった。来館バス台数はコロナ前の令和元年度の約四分の一ではあるが261台の来館があり、売上も徐々に回復している。品揃えについては、コロナ禍、隣近所にお土産を買って帰るといった状況ではなく、

調味料、芳香剤をはじめ、ご自身で消費される物が良く売れており、この傾向は、コロナ終息後も続くと思われ、品揃えの見直しを進めている。

2. 和食処「かおり」事業（香りの湯での飲食の提供）

主となる調理師が60歳定年を機に退職し、今年度は調理師不在で営業したこともあり売上は8,449,504円、前年比は55.7%、令和元年度の41,604,566円に比べ20.3%と大きく落ち込んだ。近隣に飲食店が次々オープンしていることに加え、コロナ終息後、従来の日本食会席スタイルへの需要が回復するのかが不透明でもあり、調理師の欠員補充をせず、令和5年1月4日から休業をしている。

3. 栽培事業

売上は3,976,701円(120.4%)であった。令和3年7月からスタイレム瀧定大阪(株)と進めているリサイクル培地アグリラボが順調に進んでおり、1年目で様々な植物の栽培試験を行い、2年目は商業利用を検討するためパルシェの得意分野であるハーブ栽培に絞り植え替えを順次行っている。ローズゼラニウムとハッカでエッセンシャルの蒸留を行い、バジルとイタリアンパセリはフリーズドライにしてそれぞれ商品化する。アグリラボ関連の作業と好調な特産開発事業の業務に就く時間が多くなっていることから、育苗管理が手薄になり、従来の花作りが出来ておらず、見た目の魅力に欠ける部分があった。

屋外でのお花摘み体験は人気があり、栽培事業はパルシェへの来館の動機付けとしての役割が大きい。

《今期の摘み取り体験の実績》

○カレンデュラ【期間4月1日～5月8日】10本100円

売上120,127円(1,201名) 前年82,359円(824名) 前年比145.9%

○カモミール【期間6月11日～6月29日】小袋100円

売上10,000円(100名) 前年15,540円(156名) 前年比64.4%

○ラベンダー【期間6月6日～7月3日】30本200円

売上206,685円(1,033名) 前年245,210円(1,226名) 前年比84.3%

○ひまわり【期間7月13日～8月19日】5本200円

売上85,357円(426名) 前年売上122,837円(614名) 前年比69.5%

○千日紅【期間8月27日～10月10日】20本100円

売上86,312円(863名) 前年99,755円(998名) 前年比86.5%

○コスモス・メキシカンセージ【期間10月19日～11月13日】30本100円

売上75,085円(750名) 前年91,100円(911名) 前年比82.4%

○カレンデュラ【期間3月18日～3月31日】10本100円

売上7,315円(73名) 前年46,891円(468名) 前年比15.6%

4. ファーストフード事業

売上は12,434,612円(136.5%)であった。カフェに改装して7年が経ち、マンネリ化対策が課題である。既存メニューの改良と新メニュー開発に試行錯誤を重ね、昨夏のヒットメニューである鳴門オレンジを使用したサンデーとスカッシュが今年も好評であった。今後も淡路島産のフルーツを使用したメニュー開発を強化する。淡路ラボのインターン生の知恵を借り、ランチボックスの販売、レジヤードの貸し出し、ロゴの作成等、新しい取り組みも行った。

5. パルシェマルシェ事業

契約農家の高齢化もあり、生産力の低下、品揃えの不足が大きな問題である。週末のマルシェでの営業に加え、平日は温泉番台前でも販売した。令和5年3月からはファーストフード店の建物内に移転し、毎日販売するとともにレジ係の人員削減に繋げている。

6. 特産開発事業

売上は、3,188,205円(94.9%)、オリジナルブランドSuuの販売は、卸先の増加に加え、ふるさと納税の返礼品での需要も多く、主力商品のラベンダーが品切れを越すほどに広がっている。マルシェオリジナル商品として従来から生産している安眠ハーブ・ハーブバスのリニューアルと、Suuブランドの月桂樹を使用したハンドケアスプレー・ハンドクリーム・化粧水の3種類の商品開発を進めており、あまりエッセンシャルオイルに馴染みのない客層に対応することで新たな販路の開拓を狙っている。

7. 加工(体験)事業

団体様の利用数回復と夏休み期間の観光の方が特に多く、売上は44,489,019円(137.1%)であった。密接密集が危惧される事業であるが、団体様には、レストランベルレーヌ、特産館会議室も使用し分散していただくことで理解していただき、コロナウイルス対策について旅行会社から評価を得たことが、リピートに繋がっている。スタッフの香りについての高い知識を活かし、特産開発部門のSuuの商品作りや安眠ハーブの代替商品作りなど、部署を越えた仕事にも積極的に取り組んでおり、スタイレムアグリラボで抽出したエッセンシャルオイルを商品化する試みについても、ブレンドオイル作りの調香を加工スタッフが担当した。

8. 温泉事業

入浴者数は89,391名(宿泊客3,120名を含む・113.2%)、売上は36,808,523円(113.7%)であった。今年は海水浴場が開場されたこともあり夏休みの温泉利用者数が大きく伸びた。「美人湯」「ハーブが香る湯」といった、マルシェの特色をSNS発信を中心に宣伝し、他の施設との差別化を図るよう努めている。温泉棟は全体に老朽化が

目立っており、経年劣化による修繕工事が今後も予想され、重油価格の高騰とともに大きな問題である。

9. 宿泊事業

宿泊者数 3,120 名 (178.7%) 売上は 17,689,821 円 (178.2%) であった。国の施策である旅行支援事業により旅行者も増えており、支援事業終了後もパルシェファンとしてリピーターとなっていただけの宿泊施設作りを目指す。補助金を利用し空気清浄機の全室設置、畳の表替えを行ったが、温泉棟同様、宿泊棟も老朽化が各所に目立っている。

10. 香りの公園

前年度までの流れに加え、目新しい部分を作ろうと試行錯誤しているが、管理面積も広く、パルシェからの作業応援人件費及び外部委託費等、指定管理料では賅えない作業量になっている。警備会社との契約の解約をはじめ、業務用コピー機を小型複合機に変えるなどの経費削減を進めている。

11. 総務

各売場（加工・飲食・売店・温泉等）への応援、社内のコロナウイルス対策委員会へも積極的に参加している。各種助成金の申請及び経費削減に取り組んでいる。

12. その他

イベント事業は、9月25日に「食のリレーイベント」として玉ネギの重さ当てクイズ開催と、インターン生が企画の「9月マンスリーイベント」を開催したのみで、例年実施のグラウンドゴルフ大会等は、すべて中止した。

第 1 1 期

決 算 報 告 書

令和 4年 4月 1日から

令和 5年 3月 31日まで

株式会社 淡路島パルシェ
(法人番号: 4140001088843)

貸借対照表

代表者 石井 廣志

令和 5年 3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額	科 目	金 額
(資 産 の 部)		(負 債 の 部)	
I 流 動 資 産 (56,713,321)	I 流 動 負 債 (21,526,370)
現 金 及 預 金	33,453,029	未 払 掛 金	8,175,029
債 権 掛 金	5,968,998	未 払 法 人 税	10,382,885
ク レ ジ ッ ト ・ ク ー ボ ン	1,571,295	未 払 消 費 税	185,000
棚 前 払 渡 費 入 金	14,505,309	未 前 預 商 品	2,356,300
未 取 還 付 法 人 税	444,113		282,000
未 立 貸 倒 引 当 金	222,140		124,156
	583,474		21,000
	105		
	4,858		
	40,000		
II 固 定 資 産 (9,763,808)	II 固 定 負 債 (0)
有 形 固 定 資 産	9,050,908)		
建 構 物	6,415,109		
機 械 及 装 置	1,741,671		
工 具 、 器 具 及 備 品	271,377		
	622,751		
無 形 固 定 資 産 (0)	負 債 の 部 合 計	21,526,370
		(純 資 産 の 部)	
		I 株 主 資 本 (44,950,759)
		1. 資 本 金	100,000,000
		2. 資 本 剰 余 金 (0)
投 資 そ の 他 の 資 産 (712,900)	3. 利 益 剰 余 金 (△	55,049,241)
出 入 保 証 金	10,000	(1) そ の 他 利 益 剰 余 金 (△	55,049,241)
長 期 未 取 入 金	300,000	繰 越 利 益 剰 余 金 △	55,049,241
	402,900		
		II 評 価 ・ 換 算 差 額 等 (0)
III 繰 延 資 産 (0)	III 新 株 予 約 権 (0)
		純 資 産 の 部 合 計	44,950,759
資 産 の 部 合 計	66,477,129	負 債 ・ 純 資 産 の 部 合 計	66,477,129

損益計算書

令和 4年 4月 1日から
令和 5年 3月31日まで

(単位:円)

科 目	金 額		
I 売上 商 品 上 高 飲 食 売 上 高 宿 泊 温 泉 売 上 高 裁 培 ・ 加 工 ・ 受 託 売 上 高 売 上 値 引 戻 り	45,330,792 20,965,160 55,881,272 60,272,603	△ 182,449,827 1,681,341	180,768,486
II 売上 商 材 上 材 合 期 売 上 末 上	25,575,178 21,741,545	12,199,133 47,316,723 59,515,856 12,897,503	46,618,353 134,160,133
III 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 損 失 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費 損 失		161,636,037	161,636,037 27,486,904
IV 営 業 外 収 益 金 入 受 取 取 配 取 当 入		375 250 22,465,276	22,465,901
V 営 業 外 費 用 営 業 外 費 用		0	0
経 常 損 失			5,020,003
VI 特 別 利 益 特 別 利 益		0	0
VII 特 定 資 産 損 却 失 損 特 定 資 産 損 却 失 損		1	1
税 引 前 当 期 純 損 失 法 人 税 ・ 住 民 税 及 び 事 業 税 当 期 純 損 失		185,000	5,020,004 185,000 5,205,004

販売費及び一般管理費の計算内訳

令和 4年 4月 1日から
令和 5年 3月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額
給 与 手 当	30,092,875
雑 給	46,512,598
旅 費 交 通 費	71,183
廣 告 宣 伝 費	2,179,560
送 付 手 数 料	217,639
支 払 報 酬	4,013,349
報 退 職 給 付 費	810,910
役 員 報 酬	242,948
法 定 福 利 費	720,000
厚 生 債 却 費	8,668,626
減 価 償 却 費	1,917,985
地 代 家 賃 費	1,429,069
修 繕 費	266,719
事 務 用 繕 耗 品 費	2,730,777
通 信 交 通 費	574,230
水 道 交 光 熱 費	835,783
租 税 公 課	25,442,202
寄 付 交 際 費	200,091
保 険 料	3,000
備 品 消 耗 品 費	193,177
燃 料 借 託 費	527,612
賃 借 料	6,637,943
委 託 費	15,024,935
諸 会 議 費	1,549,427
倒 債 費	10,115,773
雑 費	534,000
	91,518
	10,000
	22,118
合 計	161,636,037

棚卸資産の計算内訳

令和 5年 3月31日現在

(単位：円)

科 目	金 額
商 原 材 品	6,669,685
貯 蔵 品	6,227,818
合 計	1,607,806
	14,505,309

株主資本等変動計算書

株式会社 淡路島バルシェ

令和 4年 4月 1日から
 令和 5年 3月 31日まで
 (単位: 円)

I 株 主 資 本			
1. 資 本	当期首残高		100,000,000
	当期変動額		0
	当期末残高		<u>100,000,000</u>
2. 利 益 剰 余 金			
(1) そ の 他 利 益 剰 余 金	当期首残高		-49,844,237
繰 越 利 益 剰 余 金	当期変動額		
	当期純損失	-5,205,004	-5,205,004
	当期末残高		<u>-55,049,241</u>
そ の 他 利 益 剰 余 金 合 計	当期首残高		-49,844,237
	当期変動額		
	当期純損失	-5,205,004	-5,205,004
	当期末残高		<u>-55,049,241</u>
株 主 資 本 合 計	当期首残高		50,155,763
	当期変動額		
	当期純損失	-5,205,004	-5,205,004
	当期末残高		<u>44,950,759</u>
II 評 価 ・ 換 算 差 額 等	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		<u>0</u>
III 新 株 予 約 権	当期首残高		0
	当期変動額		0
	当期末残高		<u>0</u>
純 資 産 の 部 合 計	当期首残高		50,155,763
	当期変動額		
	当期純損失	-5,205,004	-5,205,004
	当期末残高		<u>44,950,759</u>

11463

個別注記表

令和 4年 4月 1日から

令和 5年 3月31日まで

I. この計算書類は、「中小企業の会計に関する基本要領」によって作成しています。

II. 重要な会計方針に係る事項に関する注記

1. 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) その他有価証券

移動平均法による原価法を採用しております。

2. 棚卸資産の評価基準及び評価方法

最終仕入原価法による原価法を採用しております。

3. 固定資産の減価償却方法

(1) 有形固定資産

定率法又は旧定率法を採用しております。

ただし、平成10年4月1日以後に取得した建物（附属設備を除く）については旧定額法、平成19年4月1日

以後に取得した建物（附属設備を除く）については定額法、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設

備及び構築物については定額法を採用しております。

4. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、法人税法に規定する法定繰入率により計算した回収不能見込額を計上しております。

5. 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜方式を採用しております。

III. 貸借対照表等に関する注記

1. 有形固定資産の減価償却累計額

15,021,352円

IV. 株主資本等変動計算書に関する注記

1. 発行済株式総数

2,000株

V. 一株当たり情報に関する注記

1. 一株当たり純資産額は、22,476.37円であります。

2. 一株当たり当期純損失は、2,602.50円であります。

以上